

FICoN第12回ウェブ検討会 (R7.3.5)

○「国産広葉樹資源の家具・内装材への利用拡大に向けて」

<講演>

「国内広葉樹資源の持続可能な利用に向けて」秋田県立大学木材高度加工研究所 足立 幸司氏

「国産の未活用広葉樹材を用材として利用するための材質・加工特性の把握」

森林総合研究所 藤本 清彦氏

「国産の未活用広葉樹材を家具・内装材へ活用するための利用技術」

森林総合研究所 杉山 真樹氏

<総合討論>

(司会) 森林総合研究所 杉山 真樹氏

(パネリスト) 上記講師の皆様及び山形県工業技術センター 江部 憲一氏、岐阜県生活技術研究所 長谷川 良一氏
福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター 朝野 景氏、飛騨産業株式会社 大川 伸吾氏

【ポイント】

- ・これまで使ってこなかった樹種を用材として利用するためには、材質、物理特性、加工特性、乾燥スケジュールを把握しておくことが重要。
- ・未成熟材・成熟材に関わらず、強度はほぼ密度に依存するので、密度が利用時の目安となる。
- ・広葉樹材の需要者と供給者との間には、価値基準にギャップがあり、これを埋めるための共通の尺度としてのグレーディング基準は有用。
- ・国産広葉樹材は小径で使いにくいですが、接着、塗装、曲木加工、異樹種集成など加工において工夫すれば製品として問題なく使用できる。
- ・林業・木材産業従事者の間で国産広葉樹は使えるという意識改革、またヒット商品を生みだして消費者に認知してもらうことが大切。